

令和6年度 学校図書館の機能を有効活用した 授業実践報告集



湖南省教育委員会

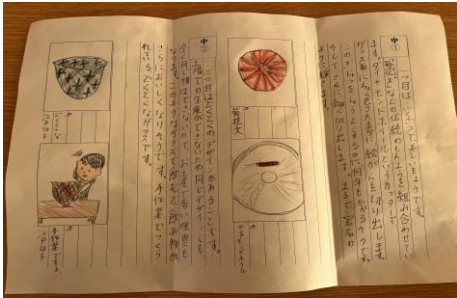
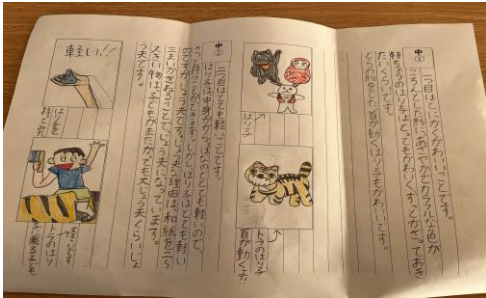
「令和6年度 湖南省学校図書館の機能を有効活用した授業実践報告集」

目 次

ページ	学校名	学年	教科等	単元名（または教材名・分野等）
1	石部小	4 年	国語科	わたしも「職人」になって工芸品リーフレットを作ろう 「未来につなぐ工芸品」 「工芸品のみりよくを伝えよう」
2	石部南小	2 年	国語科	レオ＝レオニの本をしょうかいしよう！
3	三雲東小	4 年	国語科	新見南吉の本を紹介しよう「ごんぎつね」
4	三雲小	5 年	国語科	「固有種が教えてくれること」「自然環境を守るために」
5	岩根小	6 年	国語科	「私と本」
6	菩提寺小	1 年	国語科	「つばみ」
7	菩提寺北小	6 年	国語科	ビブリオバトルをしよう
8	下田小	1 年	国語科	のりものカルタですごいをつたえよう「じどう車くらべ」
10	水戸小	4 年	国語科	場面をくらべて読み、心にのこったことを伝え合おう「一つの花」
11	石部中	2 年	理科	地球の大気と天気の変化
12	甲西中	1 年	国語科	いろんな種類の本に触れ読書感想文用の本を見つける
13	甲西北中	3 年	国語科	夏草ー「おくのほおそ道」から
14	日枝中	2 年	国語科	短歌を味わう

令和6年度
**湖南省 学校図書館の機能を有効
 活用した授業実践報告**

湖南省学校図書館活用報告 様式②
 湖南省立（石部小）学校
 報告者 （ 武井 明日香 ）

教科・単元名	国語科（4年生）・わたしも「職人」になって工芸品リーフレットを作ろう 「未来につなぐ工芸品」「工芸品のみりよくを伝えよう」		
授業者	武井 明日香	学校司書	宮木 理恵
授業実践期日	11月1日～11月25日		
ねらい	① 単元・本時のねらい	目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する。	
	② 図書館の機能を活用するねらい	工芸品に関わる資料に触れ、児童が学習内容に興味をもてるようにする。	
冊数	20冊	学習成果物 ※ 図書流通システムで活用ください。	○
・学習のながれ ・単元の工夫及び指導の工夫（図書館教育担当・学校司書等の関わりを含む）	【単元の流れ】 1. 「未来につなぐ工芸品」を読む。学習計画を立てる。 2. 筆者の思いをとらえる。 3. 初め・中・終わりのまとめりに内容を整理する。 4. 伝統工芸品に関わる本を読み、自分が調べたい工芸品を決める。 5. 自分の興味のある工芸品についてリーフレットにまとめる。 6. 作ったリーフレットを交流する。 【単元の工夫・指導の工夫】 ・教室に「伝統工芸品」関連の本を学校司書に配架してもらい、朝読書の時間や隙間の時間でも読めるようにした。 ・教科書の本文と同じような構成の本や、説明が細かく書いてある本など様々な本を揃え、個に応じて自分が取り組みやすいものを選ぶようにした。  		
本実践の アピール ポイント ・うまくいったこと ・効果があったこと	・教室に「伝統工芸品」関連の本を学校司書に配架してもらったことで、子どもたちが気軽に本を読むことができた。 ・信楽への校外学習が学習している時期近くにあったため、信楽焼きを選ぶ児童が多く、校外学習で得た資料と図書館の本を併用して調べ学習をしている児童の姿があった。 ・教科書の本文と同じような構成の本や、説明が細かく書いてある本など様々な本を揃えたことで、文章の抜き出しや書くことが苦手な児童も前向きに取り組むことができた。最初は教科書と同じ文章構成をしている本を選んでいて児童も、「もっと情報はないかな」とより細かく情報が書いてある本を探し、まとめている様子も見られた。		
次回実践時に 気を付けたい ポイント	・インターネットを利用して調べる児童もいたが、情報が多すぎるため、情報の取捨選択に難しさを感じている場面が見られた。授業者がおすすめのサイトを紹介するなどの手立てが必要であると感じた。		

令和6年度
**湖南省 学校図書館の機能を有効
 活用した授業実践報告**

湖南省学校図書館活用報告 様式②
 湖南省立（石部南小）学校
 報告者 （田井中 志帆）

教科・単元名	国語科（2年生）・レオ＝レオニの本をしょうかいしよう！		
授業者	中野 香織	学校司書	長谷 由記子
授業実践期日	6月4日～7月10日		
ねらい	① 単元・本時のねらい	場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。	
	② 図書館の機能を活用するねらい	同じ作者の本の並行読書を通して、読書の幅を広げることができる。	
冊数	43冊	学習成果物 ※ 図書流通システムで活用ください。	○
・学習のながれ ・単元の工夫及び指導の工夫（図書館教育担当・学校司書等の関わりを含む）	【単元の流れ】 ①ねらいと授業者の単元構想を聞いた上で、学校司書が適切な本をリストアップし、授業者が最終確認した本を準備する。 ②学校司書によるブックトークを聞く。 ※作者レオ＝レオニの本を並行読書する。 ③好きな場面を発表する。 ④スイミーがどんな魚か考える。 ⑤各場面のスイミーの気持ちを考える。 ⑥スイミーを読んだ感想を書く。 ⑦スイミーのしょうかいハウスを作る。 ⑧レオ＝レオニのしょうかいハウスを作る。 ⑨レオ＝レオニの本を紹介する。 【単元の工夫・指導の工夫】 ・スイミーになりきってお気に入りの場面を読み込んだり、体育科の水遊びの学習において、スイミーのストーリーを取り入れたりすることで、スイミーの世界観に入り込めるように工夫した。 ・本を紹介する機会を学習参観日に設定し、お家の方に向けて紹介することで、児童の意欲を高めるようにした。		
本実践の アピール ポイント ・うまくいったこと ・効果があったこと	・レオ＝レオニの本を多読することで、レオ＝レオニの作品の特徴を感じ取ることができた。 ・好きな本を選んだり、本の紹介ハウスの台紙の色を選んだりしたことで、やりたいという気持ちが高まり、意欲的に活動していた。 ・たくさん本を用意したことで、児童にとって初めて読む作品にも出会うことができ、読書の幅を広げることができた。 ・友だちの本の紹介を聞いて、その本を手に取り、興味をもって読む姿が見られた。		
次回実践時に 気を付けたい ポイント	・並行読書の取組に差があり、好きな本を決めきれない児童もいた。朝学習の時間なども使って、並行読書の時間を十分に設定するなど、もっと意図的に仕組んでいったほうがよいと感じた。		

令和6年度
**湖南省 学校図書館の機能を有効
 活用した授業実践報告**

湖南省学校図書館活用報告 様式②

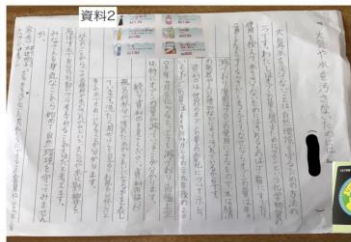
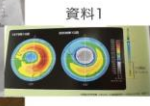
湖南省立（三雲東小）学校

報告者（澤田 良栄）

教科・単元名	国語科（4年生）・新見南吉の本を紹介しよう 「ごんぎつね」		
授業者	中尾 遼太	学校司書	谷口 愛
授業実践期日	9月26日～10月22日		
ねらい	① 単元・本時のねらい	情景や言動の叙述をもとに、心情の変化を読み取る。	
	② 図書館の機能を活用するねらい	同作者の他の本を読むことで、読書に興味をもつことができる。	
冊数	20冊	学習成果物 ※ 図書流通システムで活用ください。	○
・学習のながれ ・単元の工夫及び指導の工夫（図書館教育担当・学校司書等の関わりを含む）	【単元の流れ】 1. 「ごんぎつね」の読み取り 行動や様子から心情の変化を読み取る。 2. 学校司書によるブックトーク 新見南吉の本の紹介 3. 新見南吉の本を選び、新聞にまとめる。 「ごんぎつね」との共通点と相違点を探し、まとめる。 4. 新聞を紹介し合う。 作成した新聞をグループで見せ合って、交流する。 【単元の工夫・指導の工夫】 ・ブックトークで、新見南吉の本の紹介をすることで、同作者の他の本に興味を持てるようにした。		
本実践の アピール ポイント ・うまくいったこと ・効果があったこと	・ブックトークを始め、並行読書により新見南吉の本にたくさん触れることで、本への興味を高めることができた。授業後にも、図書室へ行き、新見南吉の本を探して読む姿が見られた。 ・「ごんぎつね」と比べながら読み、新聞にまとめることで、新見南吉の作品の特徴を捉えることができた。 ・自分の作った新聞を見ながら、グループで交流することで、友だちの意見に対してコメントを返すことで考えを深めることができた。		
次回実践時に 気を付けたい ポイント	・自校の図書のみでの学習となったので、本が足りなかった。そのため、タブレットで写真を撮って、読むようにした。流通システムを活用することで、さらに読書の幅を広げることができたのではないかな。		

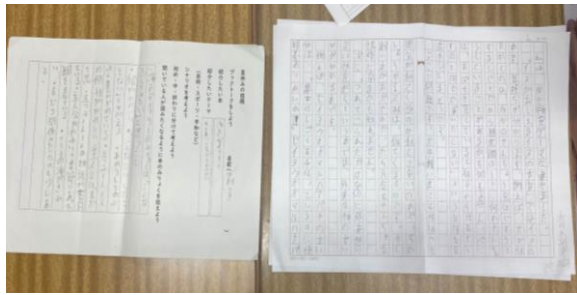
令和6年度
**湖南省 学校図書館の機能を有効
 活用した授業実践報告**

湖南省学校図書館活用報告 様式②
 湖南省立（三雲小）学校
 報告者（関口 皆実）

教科・単元名	国語科（5年生）・「固有種が教えてくれること」「自然環境を守るために」		
授業者	関口 皆実	学校司書	谷口 愛
授業実践期日	11月7日～12月2日		
ねらい	① 単元・本時のねらい	資料を用いた文章の効果を考え、それを生かして文章にまとめることができる。	
	② 図書館の機能を活用するねらい	伝えたいことに合った資料を選ぶことができる。	
冊数	49冊	学習成果物 ※ 図書流通システムで活用ください。	
・学習のながれ ・単元の工夫及び指導の工夫（図書館教育担当・学校司書等の関わりを含む）	【事前打ち合わせ】 ・学習のねらいや単元構想を確認する。 ・学校司書が適切な本をリストアップし、授業者が最終確認する。 【単元計画】 ①「固有種が教えてくれること」を初読し、学習活動の見通しをもつ。 ②文章の構成を確認し、要旨をまとめる。 ③資料が文章のどの部分と対応しているかを確認し、効果や意図を考える。 ④環境問題に関連する図書や資料を知る。（ブックトーク） ⑤環境問題について自分の書きたい内容を決めて、目的に合った資料を集める。 ⑥⑦⑧文章の構成を考え、目的に合った資料を選択し、文章にまとめる。 ⑨下書きした文章を推敲し、清書する。 ⑩書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。    【指導の工夫】 ・オクリンクを活用し、図書やインターネットから調べた資料と文章を合わせて、視覚的に分かりやすい文章が作成できるようにする。		
本実践の アピール ポイント ・うまくいったこと ・効果があったこと	・環境問題の本が幅広く用意されていたことで、一人ひとりが興味関心に合った内容を選択することができた。 ・伝えたいことに合った資料を選ぶという目的意識をもって、多くの本を手にとって資料を見比べる姿が見られた。		
次回実践時に 気を付けたい ポイント	・自分の伝えたいことに合った資料を探すことに困っている児童もいた。伝えたいことを明確にしたうえで資料を探したり、自分が関心をもった環境問題に関連する表やグラフを読み取ったりすることに十分な時間が必要だった。図書と並行して、インターネットを活用しながら資料を探したことは有効であった。 ・ブックトークで多様な本が紹介されたことで、学習活動の始まりが円滑になった。今後も学校司書との打合せのもと、積極的にブックトークを活用していきたい。		

令和6年度
**湖南省 学校図書館の機能を有効
 活用した授業実践報告**

湖南省学校図書館活用報告 様式②
 湖南省立（岩根小）学校
 報告者 （ 栗飯原 虎善 ）

教科・単元名	国語科（6年生）・「私と本」		
授業者	山田 咲希	学校司書	島田 麻子
授業実践期日	7月9日～9月2日		
ねらい	① 単元・本時のねらい	・ブックトークをすることで、作者の思いを考えたり自分の考えを広げたりする。 ・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。	
	② 図書館の機能を活用するねらい	読書が自分の考えを広げることに役立つと気づくことができる。	
冊数	自校 80冊	学習成果物 ※ 図書流通システムで活用ください。	
・学習のながれ ・単元の工夫及び指導の工夫（図書館教育担当・学校司書等の関わりを含む）	【単元計画】 ①学校司書によるブックトーク ②.③ブックトークに向けての選書 ④ブックトークに向けての準備 ⑤ブックトーク 【指導の工夫】 ・学校司書によるブックトークを初めの時間に行うことによって、自分自身がブックトークをする上で必要な要素を知ったり考えたりできるようにした。 ・児童にとって自分の考えを深めるきっかけとなった。  		
本実践のアピールポイント ・うまくいったこと ・効果があったこと	・ブックトークを通して自分の考えを深めるきっかけを作ることができ、読書は内容を楽しむためだけでなく、自分の考えを広げたり新たな知識を得たりすることにつながった。読書が自分のためになると気づくことができた児童の姿があった。 ・様々なジャンルの本があることを知り、普段読んでいない本にも興味関心を抱き読書をしてみようとする本を手にする姿があった。 ・学校司書による選書の際のアドバイスを聞くことで、児童がブックトークで伝えたい内容の本を選ぶことへの手助けとなった。		
次回実践時に気を付けたいポイント	・ブックトークをする本を選ぶ際に、最初に選んだ本に固執してしまい、テーマに合った本を吟味することが難しかった。 ・興味がある本と自分を結び付けて考えることが難しい児童は、ブックトークで自分と本の関わりを伝えられずに終わってしまった。 ・何回かブックトークを通して交流したり、自分のブックトークの様子を動画に撮ったりするなど振り返るようにし、自分のブックトークをブラッシュアップできればよかった。		

湖南省 学校図書館の機能を有効活用した授業実践報告

湖南省立（ 菩提寺小 ）学校

報告者 （ 川端 久美子 ）

教科・単元名	国語科（1年生）・「つぼみ」		
授業者	川端 久美子	学校司書	岩崎 明子
授業実践期日	6月10日～6月21日		
ねらい	① 単元・本時のねらい	・「問い」と「答え」をとらえ、事柄の順序を考えながら、内容の大体をとらえることができる。 ・自分がもっと知りたいと思った花のつぼみについて、理由とともに伝え合い、友だちと考えを交流することができる。	
	② 図書館の機能を活用するねらい	多くの関連本を使って、表にまとめることができる。	
冊数	23冊	学習成果物 ※ 図書流通システムで活用ください。	
・学習のながれ ・単元の工夫及び指導の工夫（図書館教育担当・学校司書等の関わりを含む）	【事前打ち合わせ】 - 授業のねらいと学習の流れを学校司書と確認する。 - 学校司書が適切な本をリストアップし、授業者が選書する。 - ブックトークの流れを打ち合わせする。 【選書のポイント】 - つぼみから花が咲いた時の写真が載っている。 - つぼみの状態やつぼみの開き方が、分かりやすく説明されている。 【学習の流れ】 第一次 ① 花のつぼみやさいたあとの状態を、模型を使って紹介し、関連本について、学校司書がブックトークを行う。 ② ブックトークから単元の見通しをもつ。 第二次 ③ 「つぼみ」の読み取り ④ 教科書を読んで、表をまとめる練習をする。 第三次 ⑤ 自分の好きなつぼみを選び、3つの情報（「つぼみの形」「つぼみの開き方」「咲いた後の花の様子」）で分けてまとめる。 ⑥ 表にまとめたものを準備して、つぼみの絵と咲いた後の絵の写真をタブレットで撮る。 ⑦ 「つぼみクイズ大会」をペアでやる。 ⑧ できたものをまとめて、図書館に展示する。 <指導の工夫> ・児童が書いたプリントを写真に撮って、その写真を見せながら、ペアでクイズを出し合うように工夫した。  		
本実践の アピール ポイント ・うまくいったこと ・効果があったこと	・学校司書のブックトークで学習への意欲が高まり、「つぼみ」の読み取りに役に立った。 ・「つぼみクイズ」をする時に、タブレットのカメラ機能を使うことで、視覚的支援となり、意欲的に学習に取り組む姿勢が見られた。 ・たくさんの中から自分のお気に入りのつぼみを選ぶことで、子どもの学習意欲が高まった。		
次回実践時に 気を付けたい ポイント	・「問い」に対する「答え」という順序をいかした文章構成は、「つぼみ」以降も発展的に繰り返し使われている。どの教材においても、「問い」に注目して「答え」を予想しながら読み、分かったことや考えたことを自ら進んで表現できるようにしたい。 ・図書によっては、本に書かれている事から必要な情報を探し出すことが難しく、どこからどこまで文章を抜き出せばよいのか、困っている子どもがいた。キーワードとなる語や文末表現の書き換え等を支援し、今後の学習で意識できるようにしていきたい。		

令和6年度
**湖南省 学校図書館の機能を有効
 活用した授業実践報告**

湖南省学校図書館活用報告 様式②
 湖南省立（菩提寺北小）学校
 報告者 （藤本 聡子）

教科・単元名	国語科（6年生）・ビブリオバトルをしよう		
授業者	藤本 聡子	学校司書	大森 千津
授業実践期日	7月2日～7月10日		
ねらい	① 単元・本時のねらい	・本の内容を理解し、自分の思いを折りまげ、構成を考えて本の紹介をすることができる。 ・本の紹介を聞き、本の内容や紹介者の思いを理解し、本に興味を持つ。	
	② 図書館の機能を活用するねらい	学校図書館の本を活用することによって、多様な本に出会うことができる。	
冊数	50冊	学習成果物 ※ 図書流通システムで活用ください。	
・学習のながれ ・単元の工夫及び指導の工夫（図書館教育担当・学校司書等の関わりを含む）	【事前】 ・ビブリオバトルのねらいと授業者の単元構想を聞いた上で、学校司書がビブリオバトルについて書かれた本をリストアップし、授業者が最終確認した本を準備する。 【単元の流れ等】（全5時間） ①学校司書がビブリオバトルについて説明した後、管理職・担任・学校司書の3人が子どもたちの前で模擬ビブリオバトルをすることによって、子どもたちがビブリオバトルの具体をつかみやすくする。 ②ビブリオバトル ルーブリックをもとに自分のめあてをもち、ビブリオバトルの準備をする。（構成を考え、紹介する内容を考える。電子書籍も含む。） ③声に出して、3分間で紹介する練習をする。 ④班で「ビブリオバトル予選」をする。班のチャンプ本を決める。 ⑤班のチャンプ本でクラスのビブリオバトル決勝戦をする。ルーブリックをもとに、めあてが達成できたか振り返る。		
本実践の アピール ポイント ・うまくいったこと ・効果があったこと	・担任だけでなく、学校司書や管理職などの多様な人材が関わり、模擬ビブリオバトルを行うことで、子どもたちがビブリオバトルの具体をつかみ、「自分もやってみたい!」という気持ちをもつことができた。 ・ルーブリックがあることで、自分のめあてをもちやすく、振り返りもしやすかった。 ・ビブリオバトルをすることで、楽しみながら本を読んだり、本に興味をもったりすることができた。		
次回実践時に 気を付けたい ポイント	・紹介する本をなかなか決められない児童がいたので、第1時の後、本を決める時間を十分にとることが必要であると感じた。		



令和6年度
 湖南省 学校図書館の機能を有効
 活用した授業実践報告

湖南省学校図書館活用報告 様式②

湖南省立（下田小）学校

報告者 （ 今宿 真奈美 ）

教科・単元名	国語科（1年生）・ のりものカルタですごいをつたえよう 教材「じどう車くらべ」		
授業者	青木 夏奈・今宿 真奈美	学校司書	亀田 美菜子
授業実践期日	11月1日 ～ 11月19日		
ねらい	① 単元・本時のねらい	・ のりものカルタを作るために、仕事とつくりを見つけることができる。 ・ 読み札をもとにすごいところに着目することができる。	
	② 図書館の機能を活用するねらい	教科書教材で読み解いた「仕事」と「つくり」の書き方をもとに、自分が興味のある乗り物のカルタの読み札をつくることのできる。	
冊数	40冊（自校：33冊、公共図書館：7冊）	図書流通システムを活用したかどうか	○
・ 学習のながれ ・ 単元の工夫及び指導の工夫（図書館教育担当・学校司書等の関わりを含む）	【事前打ち合わせ・事前準備】 ・ 学習のねらいや単元構想を確認する。 ・ 並行読書マトリックスを活用する。 【学習の流れ】 1. ブックトークから単元の見通しをもつ。 2. じどう車くらべの「乗用車・バス」の記述から、「仕事」と「つくり」の見つけ方が分かる。 3. じどう車くらべの「トラック」の「仕事」と「つくり」を見つけ、読み札の書き方が分かる。 4. じどう車くらべの「クレーン車」の「仕事」と「つくり」を見つけ、読み札の書き方が分かる。 5. 本や図鑑を用いて必要な情報を読み解き、順序を考えて、プリントに書く。 6. 自分の選んだ車でカルタの読み札を作り、「すごいポイント」を見つける。 7～9. 必要な情報を本や図鑑から選び、のりものカルタを完成させる。 10. のりものカルタをクラスみんなに紹介する。 11. みんなが作ったのりものカルタで遊ぶ。 ・ブックトークでは、学校司書がのりもののフラッシュカードを使って、ストーリー形式で町の中にあるのりものを紹介することで、児童の興味を高めた。 ・毎時間、前半で教科書教材、後半で並行読書に取り組むという流れで行った。並行読書マトリックスを活用することで、選んだのりものについて交流することができた。  スピードいんはんのくるま をおいけるたのびやく はしるこことびぎます すげーいぞろバイ 		

本実践の アピール ポイント ・うまくいったこと ・効果があったこと	・言語活動に設定したカルタの魅力 学習成果物をカルタに設定することで、児童はできあがったカルタを読むことに必然性を感じていた。そのため、児童は自分が書いた文章を何度も読むことで、文章の書き間違いにすぐに気がつくことができた。また、できあがったカルタで遊ぶ活動を通して、自分が選んだのりものだけではなく、友だちが選んだのりものの「仕事」や「つくり」に目を向けることができた。 ・「すごろポイント」による意欲の向上 みんなに知ってほしい事を「すごろポイント」とすることで、児童の「選んだのりもののすごろところをみんなに知らせたい」という思いを高め、学習に意欲的に取り組むことができた。 資料について 「しごと」と「つくり」がはっきり書いてある →「じどう車くらべ」シリーズ 金の星社 「はたらくじどう車 しごととつくり」シリーズ 小峰書店 自分で文章から探し出す →「はたらくじどう車スーパーずかん」シリーズ ポプラ社 「のりものくらべ」シリーズ 偕成社
実践を通しての子 どもの変容	・実践前の子どもたちの中には、拗音や長音を正しく書くことを苦手としている子や、書き間違いに気付かない子がいた。学習成果物のカルタを作る活動や、カルタで遊ぶ活動を通して、文章の書き間違いに気付くためには、自分が書いた文章を読むことが大切であると感じ、日々の学習においても意識する姿が見られるようになった。 ・入学当初より、読書活動に意欲的に取り組む子どもたちが多い学年であった。並行読書マトリックスを活用するとともに、本から必要な情報を読み解いて「すごろポイント」を書くという経験をしたことで、楽しみながら読書活動に取り組み、子ども同士で読んだ本についての感想を交流する姿が見られるようになった。
次回実践時に 気を付けたい ポイント	・「仕事」に関係している「つくり」を図鑑のたくさんの記述の中から見つけることに苦戦している児童は多かった。教科書教材で読み解く活動により丁寧に取り組むとともに、読み解き方を掲示する必要がある。また、図鑑に書かれていることをじっくりと読み、理解する時間の確保が必要である。 ・「図鑑」に書かれている事から必要な情報を見つけることは容易であっても、文末を置き換えることは児童によって差があった。そのため、文末の置き換えが不要な図鑑だけを活用するなど、実態に応じて考慮する必要がある。

令和6年度
**湖南省 学校図書館の機能を有効
 活用した授業実践報告**

湖南省学校図書館活用報告 様式②
 湖南省立（ 水戸小 ）学校
 報告者 （ 谷口 佳澄 ）

教科・単元名	国語科（4年生）・「場面をくらべて読み、心にのこったことを伝え合おう」 「一つの花」		
授業者	清水 佑哉・奥村 朱璃	学校司書	亀田 美菜子
授業実践期日	6月12日～6月21日		
ねらい	① 単元・本時の ねらい	戦時中の様子を知ることによって物語を理解すると共に、平和への思いをもつ。	
	② 図書館の機能を 活用するねらい	ブックトークや読書活動を通して、教材の時代についての関心を高め、教材の理解を深める。	
冊数	44冊(自校)	学習成果物 ※ 図書流通システムで活用ください。	
・学習のながれ ・単元の工夫及び 指導の工夫（図書 館教育担当・学校 司書等の関わりを 含む）	【事前打ち合わせ・準備（担任・学校司書）】 ねらいと単元構想を共通理解した上で、学習課題に適した選書ができるよう、司書が図書の配架整理を行う。 【学習の流れ】 （1次）①学習課題をつかみ、学習計画を立てる。 （2次）②学校司書によるブックトーク（戦争に関する絵本、言葉の紹介） ③物語の設定を確かめ、内容を捉える。 ④⑤登場人物の会話、行動から登場人物の思いを確かめる。 ⑥題名に込められた思いを考える。 ⑦心に残った登場人物の行動を、理由とともに書く。 （3次）⑧書いたものを交流し、互いの考え方の違いを見つけて伝え合う。  		
本実践の アピール ポイント ・うまくいったこと ・効果があったこと	- 単元の導入で「戦争」に関する絵本などのブックトークをすることで、時代背景や当時の生活の様子、言葉などについての興味と理解を深めることができた。 - また、「戦争」はどこかの外国で起きているという捉えから、現在の自分とつながる日本での出来事でもあったことを理解し、物語を詳しく知ろうとする動機付けにもつながった。 「戦争」のイメージがしにくい児童にとって、当時の写真や様子がわかる絵本や本の配架が時代の様子を理解する上で有効であった。		
次回実践時に 気を付けたい ポイント	単元導入での関心を高めるきっかけとして、ブックトークや図書の配架が有効であったが、学習を進める段階においては、十分に本に親しむ時間を確保することができなかった。学習展開の中で物語の理解を深めたり、さらなる疑問への解決につなげたりする手立てとしても図書活用できる学習計画を立てていけるとよい。		

令和6年度
**湖南省 学校図書館の機能を有効
 活用した授業実践報告**

湖南省学校図書館活用報告 様式②

湖南省立（石部中）学校

報告者 （宇氣 早苗）

教科・単元名	理科（2年生）・「地球の大気と天気の変化」		
授業者	吉田拓馬	学校司書	上田由季子
授業実践期日	12月18日～12月22日		
ねらい	① 単元・本時のねらい	- これまでの学びを活かし、与えられた天気図をもとに天気予報ができる。 - 天気予報に必要な情報を取捨選択し、相手にわかりやすくまとめられる。 - 相手が必要としている情報を与え、お天気リポートに取り入れられる。	
	② 図書館の機能を活用するねらい	図書資料を活用することで基礎的な知識を理解させる。	
冊数	4冊	学習成果物 ※ 図書流通システムで活用ください。	
・学習のながれ ・単元の工夫及び指導の工夫（図書館教育担当・学校司書等の関わりを含む）	- 天気図から指定された日の天気予報をする。 お天気リポーターとして必要な情報の伝え方を学ぶ。・・・本時 - 学んだ情報の伝え方をもとに、天気予報を見る人が必要としている情報を的確に伝えられる資料を作る。 - お天気リポートの流れをつくる、リハーサルをする。 - 班ごとにお天気リポートをする。 情報の伝え方を相互評価をする。 授業内容 天気図を見て、明日の天気を予想する。天気予報士になったつもりで伝える。 司書の支援 情報を伝える方法を指導する。 お天気リポーターが伝える情報について紹介する。		
本実践の アピール ポイント ・うまくいったこと ・効果があったこと	- 気象に関する基本用語を図書資料を使って学習した。 - それをもとに気象庁のHPで専門的な知識と結び付けた。 - 最初は図書資料を活用する、中盤からネット情報を活用する手立てによってスムーズに専門的な知識との結び付けができた。		
次回実践時に 気を付けたい ポイント	図書資料を多く集めること。		

令和6年度
**湖南省 学校図書館の機能を有効
 活用した授業実践報告**

湖南省学校図書館活用報告 様式②

湖南省立（ 甲西中 ）学校

報告者 （ 藤嶋 侑子 ）

教科・単元名	国語科（1年生）・いろいろな種類の本に触れ読書感想文用の本を見つける		
授業者	石畠・藤嶋・坂上（司書）	学校司書	坂上
授業実践期日	7月		
ねらい	① 単元・本時のねらい	・普段自分からは読まないジャンルの本にもふれる。 ・少しでも本を読む機会を作る。	
	② 図書館の機能を活用するねらい	いろいろな本を読むことができることが理解できるようにする。	
冊数	120冊	学習成果物 ※ 図書流通システムで活用ください。	
・学習のながれ ・単元の工夫及び指導の工夫（図書館教育担当・学校司書等の関わりを含む）	（事前準備） ・学校司書にさまざまなジャンルの本を選書してもらい、授業者が確認する。 ・絵本や著名人の格言、戦争についてなど幅広い作品を選書した。 （授業） ・くじ引きで席を決め、その席においてある本を5分間黙読する。 ・本につけてあるしおりに一言感想を書く。 ・右横に1つずつずれて座る。その席の本を5分間黙読する。 ・本につけてあるしおりに一言感想を書く。 ・繰り返し（時間まで4・5回繰り返す）行う。 ・最後に1番読みたい本の名前と感想を、プリントに書いて提出する。 ・生徒が借りたい本を貸し出す。		
本実践の アピール ポイント ・うまくいったこと ・効果があったこと	・幅広いジャンルの本にふれることができた。 ・政治の本や戦争の本など、普段読みにくい本も、貸し出しがあった。 ・生徒たちも「この本よかった」と友達同士で話し合っていた。 ・学校司書の選書がよかった。		
次回実践時に 気を付けたい ポイント	・45分授業の日は時間が短いため避けたい。		

令和6年度
**湖南省 学校図書館の機能を有効
 活用した授業実践報告**

湖南省学校図書館活用報告 様式②
 湖南省立（ 甲西北中 ）学校
 報告者 （ 堀井 陽 ）

教科・単元名	国語科（3年生）・夏草一『おくのほそ道』から		
授業者	堀井 陽	学校司書	上田 由季子
授業実践期日	11月26日～11月29日		
ねらい	① 単元・本時のねらい	・人生をかけた芭蕉の旅を追体験し、自分の考えを広げたり、深めたりする。 ・授業内で学習した俳句以外を調べ、作者の感性に触れながら、俳句に親しみを 持つ。	
	② 図書館の機能を活用するねらい	授業で取り上げていない俳句の内容を図書を活用して調べること で、詠まれた季節や情景の理解を深める。	
冊数	122冊	学習成果物 ※ 図書流通システムで活用ください。	○
・学習のながれ ・単元の工夫及び 指導の工夫（図書 館教育担当・学校 司書等の関わりを 含む）	【俳句を調べて旅気分!? 芭蕉と行く 2400キロの大旅行】というタイトルをつ けて、授業で扱った「序章」「平泉」以外で詠まれた俳句を調べる。 〈授業の流れ〉 ①あらかじめ調べる地域を決めて、生活班に割り当てておく。 a) 江戸から東北に向けた道のり(1、2班) b) 東北地方～太平洋側～(3班) c) 東北地方～日本海側～(4班) d) 北陸地方～大垣まで(5、6班) ※班の中で調べる俳句が重ならないようにする ②複数の本を使って、季語や季節、情景を確認し、 俳句の鑑賞を行う。 鑑賞の観点：・五・七・五の中で用いた表現への推察 ・詠んだ情景(その時の感情、見た景色はなにか)など ・学校司書には、選書や調べ学習のときに本に 載っている俳句が「おくのほそ道」の中で詠まれて いるかを、複数の本から一緒に調べてもらうなどをした。		
本実践の アピール ポイント ・うまくいったこと ・効果があったこと	・各班の中で調べる俳句を重ならないようにすることで、マイナーな俳句が学級の 中で共有できるようになった。 ・季語や表現技法などを、初めて見る俳句から、授業の中で学習した見つける方法 を生かして、探し出そうとする姿勢が見られた。 ・表現技法によって生み出される俳句の効果を推察し、松尾芭蕉や曾良の当時の気 持ちに共感したり、疑問に思ったり、感じたことを鑑賞文としてまとめることがで きていた。		
次回実践時に 気を付けたい ポイント	・今回は時数の関係上1時間で行ったが、情報を集める時間とまとめて、鑑賞文を 書く時間の2時間を確保できるようにしたい。理由は、手に取った本によっては情 報が十分に得られず、情報集めに時間がかかり、鑑賞文は持ち帰りになったから だ。そうすると、提出をしない生徒も見られたので、十分な時間の確保が必要だと 思った。		



令和6年度 湖南省 学校図書館の機能を有効 活用した授業実践報告

湖南省学校図書館活用報告 様式②
 湖南省立（ 日枝中 ）学校
 報告者 （ 國領信一 ）

教科・単元名	国語科（2年生）・短歌を味わう		
授業者	川村 奈緒美	学校司書	木村 淳子
授業実践期日	9月13日、18日		
ねらい	① 単元・本時のねらい	学校での出来事や生活の中の一場面をもとに短歌を作る。	
	② 図書館の機能を活用するねらい	現代の歌人の作品を紹介することで、作品作りの参考としたり、発想を得たりする。	
冊数	8冊	学習成果物 ※ 図書流通システムで活用ください。	
・学習のながれ ・単元の工夫及び指導の工夫（図書館教育担当・学校司書等の関わりを含む）	①司書が現代の歌人の短歌を紹介するときに、イメージを写真で示し、学習の導入とした。 → ②学校の風景（教室、グラウンド、体育館、廊下など）を写真に撮り、各自がタブレットで見ながら、短歌の材料を選んだり、イメージを膨らませたりできるようにした。 自分たちの学校のイメージの写真   ③生徒は選んだ風景をもとに短い文章を作り、さらにそれを短歌にしていって。作った短歌は湖南省の「小さな詩人たち」に応募した。		
本実践の アピール ポイント ・うまくいったこと ・効果があったこと	・実際の学校の風景を見て、想像を膨らませたので、実体験が作品につながった。 ・生徒にはあまりなじみがない短歌や歌人について紹介することができ、学習の発展として効果的だった。		
次回実践時に 気を付けたい ポイント	・図書室に短歌のコーナーを設け、さらに興味を持ってもらいたいと思っていたが、生徒の反応は今一つだった。今後、学習が次の読書活動につながるような効果的な活動を考えたい。		

**令和6年度
学校図書館の機能を有効活用した授業実践報告集**

発 行 日	令和7年3月
編集発行	湖南市教育委員会